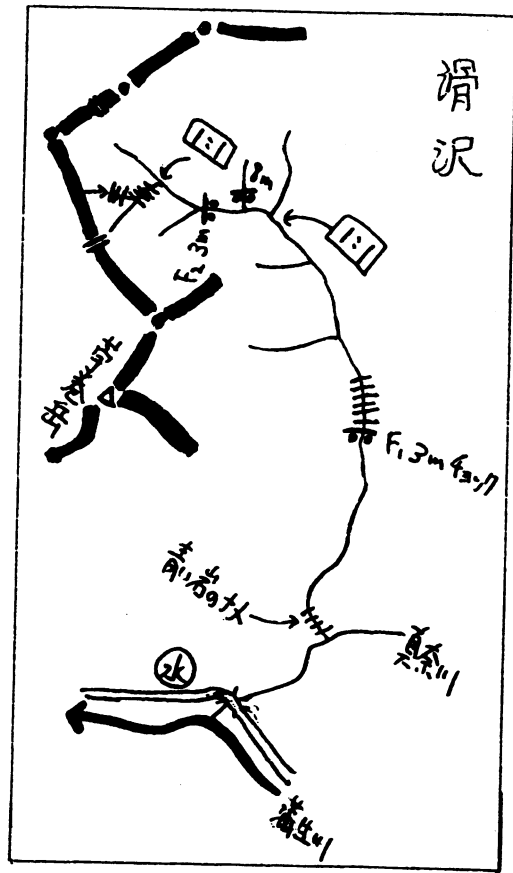


松沢君がサンショウウオとそのオタマジャクシをみつけた。サンショウウオのオタマジャクシを見るのは初めてで、カエルの子よりも尾が太く、ずんどうである。F₂ は右岸の木につかまって下る。

「まだか、まだか」と思いつつ下り、やっと二俣につく。ここから真奈川出合まではチョックストーン滝があるだけ。単調でかなり長く感じた。出合は青い美しいナメとなって、真奈川に注ぎ込んでいた。

(記・

[タイム] 尾根(10:40)→右俣出合(11:35)→真奈川出合(12:40)



塩沢川支流笠倉沢 1995年7月30日

L

立安沢右俣の遡行終了後、尾根で小休止。尾根からはブッシュにつかまりながら下ると、ほどなく沢に出る。ここから先は傾斜がきつく、ブッシュも途切れ途切れで、簡単には下降できない。ザイルを3回連続で使用し、ナメや滝を慎重に下降する。雪渓を越え先に進むと10m滝で、またしてもザイルを使用する。この後の滝はいずれもナメ状で、慎重に下降した。

結構高度を下げたにもかかわらず、またしても雪渓の出現。この頃より今日の行動が長く感じられ、だんだんいやになるが、行けども行けども終わらない。

その後の滝の下降は、脇のブッシュを使って下る。やがて5mの滝。ゴルジュ模様で、今日最後のザイルの世話となる。あとは長い林道歩きとなった。

(記・

[タイム] 尾根(12:00)→塩沢川出合(14:40)

塩沢川支流立安沢右俣

1995年7月30日

L:

キャンプ地から早朝に車で移動し、出合まで歩いて遡行開始。

出合から10分、釜の中にイワナの魚影を発見する。先が長いので、姿を見ただけで先に進む。3~6mクラスの滝が連続するようになり、ゴルジュの様相を呈してくる。この先も連続して滝がかり、飽きることのない遡行が続く。

行程的にみて3分の1、標高で約500mくらいの地点まで来たが、まだまだ2~6mの滝が連続する。本日最大の滝20mは何とか登れたが、次の20m滝は左岸を捲く。するとすぐ二俣で、目的である右俣を進む。

しばらく進むと平坦となり、沢の様子は一変して、ゴロ歩きとなる。沢の中にはまだまだイワナの姿を見ることができるが、先に進むにしたがって水量がどんどん減ってゆく。二俣までは結構楽しめたのだが、この後は2~3mの滝が

